

ムダにムダを重ねる徳山ダム「導水路」はいらない！

導水路はいらない！愛知の会

会報23号

2014年10月6日

〒467-0853

名古屋市瑞穂区内浜町1-15

加藤伸久方

TEL/FAX 052-811-8069

URL: <http://www.dousuiro-aichi.org/>

8月6日（水）名古屋高裁に控訴しました！

名古屋地裁は7月24日、「導水路中止」住民訴訟裁判について、原告が示す事実を目を背け行政に跪き、住民請求を棄却、極めて情けない不当判決を言渡しました。

不況で多くの県民が苦しい時代、「財政が苦しい」を枕ことばにして、福祉・医療・教育の施策に大ナタを振る一方で、ムダな「導水路」事業ムダな「導水路」事業に愛知県 318 億円、名古屋市 120 億円もの税金を投入することは止めさせましょう！



「導水路」中止裁判・控訴審 第1回口頭弁論

傍聴をお願いします。傍聴席を満席にしましょう！

- 日時／場所 10月29日(水) 15:30～／1号大法廷
※15:00～裁判所正面歩道で事前集会→入廷行進
- 裁判終了後→(弁護士会館へ移動して)「報告集会」
※弁護団による(口頭弁論での原告・被告双方が提出の準備書面をメインに)解説、意見交換

目次

P2

仲間の声

地裁不当判決＝請求棄却を許さず、控訴審へ新たな決意
林秀治さん、野村正男さん、土井敏彦さん、宮崎武雄さん

P4

署名のお願い

石木ダム建設(13世帯60人が暮らす土地)強制収用に反対

P5

報告

2014年総会・地裁「不当判決」控訴決起集会&5周年記念講演
会員・サポーターの皆さんへ“イベント参加”などのお願い

P6

仲間のこえ

地裁不当判決を許さず、控訴審へ新たな決意（その1）

2011年の県知事選で河村市長と組んで「導水路事業の見直し」を共同公約に挙げていた大村知事は、「今回の判決はきわめて妥当だ」（日本経済新聞）と絶賛しましたが、裁判の最大の争点「水需要の予測の実績との乖離」が判決で認定されたことにこそ、県政の最高責任者である知事は焦点を当て、「計画の再検討をして事業からの撤退の必要性」など言及すべきです。



昨年1月、県へ「導水路」撤退を強く迫りました。

7/24不当判決に対し、早速にも控訴審で頑張ろうと多くの方から激励の声が事務局に寄せられていますが、その中から一部をご紹介します。

私たち県民は微力ですが無力ではありません。「導水路はいらない！愛知の会」原告・会員など、沢山のサポーターの皆さま、裁判傍聴や財政支援など一層のご支援をお願いします。

「それでも、それでもなお……」

林 秀治（住基ネット反対運動を進める会・東海）

年齢70を過ぎたプレ団塊世代の老人が、何故そこまで拘るのか。それはこんな社会を作ってしまったのは私たちだから、私たちで間違いは正さなければならないと思うからです。

人間の傲慢と身勝手、もうこれ以上自然を痛めつけてはいけぬ。自然の恵みを楽しみ続けられるよう、自然のバランスを壊してはいけぬ。おかしい制度や間違った施策は正さなければ孫子に引き継げない。

一審判決は私たちの示した事実や思いを、真摯に考慮してくれませんでした。つい最近、県を負かした判決を下したこともある裁判長ただただに残念です。判事はヒラメと言われますが、たまには福井地裁の原発判決等の例もありますので、これからも諦めずに訴えます。



原告の皆さんと気持ちを一つに これからも闘っていききたい

野村 正男（東海民衆センター）

私は岐阜県在住のため、導水路裁判の原告としては参加できず、しかし原告の皆さんと同じ気持ちをもってこの5年間、「導水路事業の中止」を強く願って裁判の傍聴支援を行ってきました。

導水路事業の元凶である徳山ダム建設反対闘争を、揖斐川下流域の住民として精一杯闘いましたが、徳山ダムの完成を許してしまいました。

使われることのない水を貯めておくために3500億円の巨費を使い、村をつぶし、自然環境を破壊しながらも「行政のやることは正しい。異議を申すな」とばかりに司法と連携して作った無駄なダムなのです。導水路事業は必要とされない水を流すだけの更に無駄を重ねるもので絶対作らせてはなりません。

判決言い渡しを前に、5月に福井地裁で出された大飯原発運転差し止めの感動的な判決で司法の良心を見た後であり、一縷な期待をもって裁判傍聴に参加しましたが、その判決はわずか数秒の「請求を棄却する」でありました。

5年をかけて多数の意見陳述と、水需要予測の誤りを科学的データを示して追求し、導水路事業からの撤退を求めてきましたが裁判所は聞く耳を持たず、「水資源施設は完成までに相当期間を要する」と徳山



ダム裁判と同じ論理で切り抜けました。

導水路事業はまだ工事は始まっておらず、無駄な公共事業を止める闘いはまだまだ続きます。無駄な借金を子や孫たちに残さないために、自然破壊をこれ以上させないために、引き続き弁護団、原告の皆さんと気持ちを一つにしながら闘っていきたいと思います。

「徳山ダム導水路事業」地裁、原告請求棄却判決に思う

土井 敏彦（医 師）



① 水余りだから、もう新たな供給は要らない。② それだけの流水量が必要という科学的根拠がない。そして、③ 長良川の環境破壊が起こる。④ 建設費890億円がムダ。などと訴えて訴訟を起こしましたが、あえなく敗訴しました。福井章代裁判長、他2名の裁判官は何を考えているのだろうと、長い判決文を読みました。

くどくどしてわからない所もあったけれど、だいたいわかりました。要するに彼ら裁判官の判断は、①は「確かに水余りだが、県の裁量権の範囲内」。②は「必要流水量の科学的根拠はないが、歴史的にそうになっているのだから許される」。③④は無視、というものでした。

あえて邪推すればこんな事でしょう。「せっかく、時間をかけここまで来たのだから、そんなにぐじゃぐじゃ言わず、お上に従い、今まで通りにしなさい。それが幸せなんだから。」

今、裁判員制度など、司法の改革が遅まきながら、始まっています。本事件は、行政訴訟ですが、刑事事件ではさまざまな問題が露呈しています。

私は、国民救援会にも入っており、いろいろ冤罪事件の話も聞いています。検察の主張が90数%以上認められる、という事など、検察と裁判官との癒着がささやかれています。

本事件では、被告（県）の意向を特別に重視したとは思いたくありません。しかし、問題の本質をしっかり捉え、原告の思いを真正面から受けとめた判決ではないのは確かです。高裁の真摯な判断に期待します。

ムダにムダを重ねる導水路はいらない！

宮崎 武雄（控訴人）



7月24日名古屋地裁で、「徳山ダム導水路」に関する公金支出差止を求める住民訴訟の判決がありました。判決は、原告が示す事実は一顧だしない、事業者側の主張を鵜呑みにする不当な判決でした。

その昔、金沢地裁での「志賀原発の設置許可取消」と「金沢市の住基ネット接続拒否」の一審判決では、住民側勝訴の判断が示されました。しかし、金沢高裁の控訴審では、住民側敗訴の判決が出されました。高裁のいずれの裁判長も最高裁研修所に在籍した経験があり、ここは司法エリートの通過点だそうです。この度の福井章代裁判長も最高裁研修所を経ており、さもありなんと思います。

判決文に「水資源開発施設はその整備に長い時間を要し、水需要が急増したとしても、その時点では整備が間に合わず、需要増に対応した供給ができないうんぬん」とあります。

渇水の事例として、よく94年の知多半島の19時間断水が、取り上げられますが、この時断水が解除されたのは、雨乞いが通じて上流域に雨が降った訳ではありません。農業用水を上水道に転用したのです。縦割りの行政を止め、農水、工水、上水の柔軟な運用をすれば、ムダなダムはいらなくなります。原告団、弁護団は8月6日、勝訴を確信し名古屋高裁に控訴しました。私も微力ながら粘り強く闘いたいと思います。

余談ですが、松尾芭蕉の「おくのほそ道」に随行した河合曾良、俳号の曾良は木曾川の「曾」と長良川の「良」から取ったといわれております。もしも、導水路が木曾川まで通ったら、「曾良斐」にするのか、泉下の河合曾良に聞いてみたい。

署名のお願い

石木ダム建設のための強制収用に反対し 裁決申請撤回を求める署名活動に ご協力をお願いします

—「石木川守りたい隊代表」松本美智恵さんより、「導水路の会」事務局へお便りが届きました。—

県膳棚町のホテルの里とよばれる自然豊かな美しい里山・川原(こうばる)地区を強制収用しようとする長崎県と佐世保市は9月5日、ついに「収用裁決申請」を県収用委員会に申請しました。

かけがえのない自然と住民の古里を奪ってまで必要なダムなのか? 「石木川守りたい隊代表」は、ダム検証のあり方を問う科学者の会、日弁連などの皆さまと共に検証してきましたが検証すればするほど、石木ダムは必要性の無い事業であることが明白になってきました。



14.9.28 長崎 山崎 豊利

佐世保市水不足解消のため、石木ダム建設計画が1972年に発表された。しかし地元建設反対者の同意を得ることができず40年余りが過ぎた。事態は大きく動いた。

9月18日、県収用委員会は長崎県、佐世保市がダム建設のための土地を収用する裁決申請を受理した。この後は強制収用を強ずるのみとなった。だが、このダムは本当に必要なのだろうか。ダム建設の前佐世保市が取り組むべきことがありはしないか。周辺の市町では30年後には人が住まないと予想さ

水の融通がダムより経済的

長崎県、佐世保市がダム建設のための土地を収用する裁決申請を受理した。この後は強制収用を強ずるのみとなった。だが、このダムは本当に必要なのだろうか。ダム建設の前佐世保市が取り組むべきことがありはしないか。周辺の市町では30年後には人が住まないと予想さ

佐世保市水不足解消のため、石木ダム建設計画が1972年に発表された。しかし地元建設反対者の同意を得ることができず40年余りが過ぎた。事態は大きく動いた。

9月18日、県収用委員会は長崎県、佐世保市がダム建設のための土地を収用する裁決申請を受理した。この後は強制収用を強ずるのみとなった。だが、このダムは本当に必要なのだろうか。ダム建設の前佐世保市が取り組むべきことがありはしないか。周辺の市町では30年後には人が住まないと予想さ

利水目的である佐世保市の水不足はすでに解消されています。利水目的である川棚川の洪水調整も、計画中の川棚川河川改修工事が終了すれば、過去の洪水は防げるという事実が明らかになりました。このようにまったく必要性の無いダムのために、13世帯60人の家と土地を強制することは許されません。

県と市がおこなった「収用裁決申請」を一日も早く撤回させ、40年以上にわたってムダなダム建設反対してきた、川原地区の人々の暮らしと自然を石木ダムから守る署名にご協力いただきますよう、心からお願いいたします。

<お願い>

- ① 完成した署名用紙は、「石木川まもり隊」(〒857-0834 長崎県佐世保市潮見町1-30-1311 松本方)へ送付願います。封筒・切手はカンパでお願いします。
- ② もっと詳しくお知りになりたい方は、「石木川まもり隊」ブログ(<http://blog.goo.ne.jp/hotaru392011>)をご覧ください。
なお、メール環境にない方は「事務局」(TEL 0956-80-1754)へお問い合わせ下さい。

報告 14総会・「控訴」決起集会&5周年記念講演が開催

地裁「不当判決」から10日が経過した8月3日(日)、名古屋市中区の東別院会館 2F会議室で2014 総会・「控訴」決起集会&5周年記念講演会を開きました。

総会では冒頭、小林共同代表が“地裁判決は原告ら住民側が明らかにした事実を基に被告の主張をなぞったもの、控訴審で勝利をと「会」を代表して報告挨拶しました。



次いで、原告代表の宮崎氏と「設楽の会」市野代表が連帯挨拶。その後は、約50人の集会参加者へ向けて在間弁護団長より「導水路訴訟・地裁判決を批判する」を演題に約30分ほどのミニ講演が行われました。

講演後、講師への質問・意見が熱心に相次ぎました。締めくくりは、控訴審で「完全勝訴」を獲得するためにも一人でも多く傍聴に足をはこんでもらい、「導水路はムダ！」世論を根付かせていこうとの呼びかけについて、参加者全員の拍手で確認しました。

●ミニ講演の概要

- ① 撤退通知に伴う水道等負担金の支払いは義務有りとするが、事実上は支払う必要無し
- ② 需要予測が実績と乖離は認めたが、被告等が主張「長期的な視野が必要」を追認
- ③ 河川維持流量について「議論の余地はあるが、著しく合理性を欠くものではあるとまではいえない」と、裁判所おさまりの「否定の否定」踏襲で判断を回避。

記念講演は、伊藤 智章 朝日新聞論説委員（名古屋在勤）が熱弁



◆演題 被災地からみた公共事業

岩手県の宮古市局に勤務して考えたこと

- ◇概要
- ① 東日本大震災の特長(実相)は、*原発震災、*400kmの広域津波被害、*過疎地で不況、財政難のなかの巨大災害
 - ② 復興まちづくりは政治の貧困、住民の純朴さからか、地元の復興に役立たない箱ものづくり→語り部事業、修学旅行などが有望。

※在間弁護団長「ミニ講演」、伊藤論説委員「記念講演」は当会HPにアップしております。

なお、メール環境にない方はご遠慮なく事務局(会報P1右上覧に掲載)へご連絡下さい。

■2013 年度会計報告 (2013/03/01～2014/02/28)

入 金		出 金	
摘 要	金 額	摘 要	金 額
前年度より繰越金	305, 528	弁護士13年度分	300, 000
会費(原告・会員)	408, 830	(弁護士会館含む)	
4周年記念総会	16, 000	「会報」印刷費	13, 200
個人カンパ	93, 000	「会報」送料	81, 980
		ミニ通信はがき	37, 500
		振込手数料	8, 060
		4周年記念総会	15, 340
		会場費(&イベント)	11, 500
		事務・消耗品費	28, 550
		渉外費・その他	48, 000
合 計	823, 358	合 計	544, 130
差し引き残高	279, 228	(次年度へ繰越し)	279, 228
内訳:通帳残高	(100, 000)		
現金残高	(179, 228)		

◇◇会員・サポーターの皆さまへ “イベント” 参加のお願い◇◇

—愛知県地域振興部土地水資源課が企画のESDシンポジウム—

① 10/26(日)「海・川・人のつきあい方」(同封チラシを参照)

＜問い合わせ先:愛知県地域振興部土地水資源課・企画調整グループ(Tel. 052-954-6122)＞



ESDがらみで何かと催し物が多い 10 月ですが、嘉田由紀子・前滋賀県知事ら豪華キャストを迎えてEDSシンポジウム「サステナブルな海・川・人のつきあい方」が開催されます。

日時：平成 26 年 10 月 26 日（日）午後 2 時 30 分～午後 5 時 30 分

会場：アイリス愛知 2 階 大会議室コスモス

(名古屋市中区丸の内 2-5-10 TEL 052-223-3751)

—環境汚染と人間崩壊の時代、「水俣病」事件の事実と経験から何を学ぶか—

② 11/22(土)～30(日) 水俣・岐阜展 (同封チラシを参照)

＜問い合わせ先:水俣・岐阜展開催会議(Tel. 058-232-8616、Fax 058-232-8628)＞



田中正造曰く「真の文明は山を荒らさず、川を汚さず、村を破らず、人を殺さざるべし」。水俣病はまさに「海を荒らし、村を壊し、人を殺した」最大級の公害事件。未だ解決されていません。現代文明は人間を幸せに導くのでしょうか

病い深き現代社会のあり方への再考を促すささやかな風をこの町に吹き渡らせたいと水俣・岐阜店が行われます。

* とき／ところ 11/22(土)～30(日)／岐阜市民会館他 2 会場

※チケット 一般 1000 円 (前売り券 800 円) お求め先はチラシをご覧ください。

—全国集会「霞ヶ浦導水事業はいらない！アユ・シジミ・サケ漁業を守ろう！—

③ 11/29(土)～30(日) 全国集会 (&「水源連」総会)

＜問い合わせ先:「全国集」実行委員会(Tel.029-946-0988、090-3591-1253)＞



栃木・茨城県を流れる那珂川はアユの漁獲高日本一を誇り、最下流で合流する湖沼川はシジミの三大産地の一つです。この豊かな水産資源を育む那珂川に大きなダメージを与える霞ヶ浦導水事業が進められています。

那珂川の漁業を守らなければならないと、水系の 11 漁協が導水事業差止めの裁判を起こし、今年 12 月に結審を向かえます。

導水事業の三つの目的はいずれも破綻し、巨額の公費を浪費するだけになっています。

* とき／ところ 全国集会：11/29(土)午後 2 時～／茨城大学 (茨城県水戸市)、

※11 月 30 日 (日) 9 時～11 時；那珂機場見学、サケ魚見学、カヌー下り

11 時～15 時；水源連想会 (那珂川漁協 2 階会議室)